

# 茨城大学学報

第271号

平成19年2月～平成19年3月



共通教育棟前の桜

## INDEX

- ◆ハンドボール部(女子)、大学選手権で銅メダル!
  - ◆茨城県近代美術館と美術普及で連携協力
  - ◆平成18年度茨城大学卒業式
  - ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより
- 2月号
- 3月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ハンドボール部（女子）、大学選手権で銅メダル！

平成 18 年 11 月 16 日（木）～20 日（月）、その年の大学チャンピオンを決する「第 42 回高松宮記念杯全日本学生ハンドボール選手権大会」が名古屋市の中村スポーツセンターで開催され、本学ハンドボール部（女子）が 6 年ぶり 2 回目の 3 位入賞を果たし、銅メダルを獲得しました。

ここ 10 年来、関東学生リーグ戦で 1 部（8 チーム）に所属し、大学界では上位ランクに属していながら、関東リーグや大学選手権（インカレ）では近年、今ひとつの成績でしたが、今年は、春・秋の関東リーグ戦で 3 位と好成績をあげ、インカレにも大会第 6 シードで臨むことができました。2 回戦で東北 2 位の東北福祉大学に圧勝し、翌日の準々決勝では福岡教育大学（大会第 2 シード）に終始リードされながら、残り 5 分で 5 点連取し、奇跡的ともいふべき大逆転の勝利を納めることができました。さすがに翌日は優勝候補一番手の筑波大学に完敗しましたが、3 位で銅メダルの栄誉に輝きました。

全国の予選（24 チーム出場）を勝ち抜いてこの大会に出場するだけでも大変なことなのですが、ハンドボール部（女子）は 13 年連続 18 回目の出場で、6 年ぶり、2 回目の入賞となりました。なお、大会優秀選手として西坂純さん（教育学部 4 年）が特別賞を得るという二重の喜びにひたることができました。

今回の勝利はもちろん、学生の日頃の努力の成果ですが、なにかとサポートいただいた大学関係者のお陰でもあります。私たちハンドボール部の喜びと共に全学の皆様に感謝の気持ちを込めて報告いたします。

なお、この後、平成 18 年 12 月 21 日（木）～24 日（日）に行なわれた平成 18 年度のハンドボール界日本一を決める「全日本総合ハンドボール選手権大会」（12 チーム出場）にもハンドボール部（女子）が推薦され出場したことも併せて報告させていただきます。



## ◆茨城県近代美術館と美術普及で連携協力

教育学部及び大学院教育学研究科と茨城県近代美術館は、美術の普及と人材育成を目的に連携協力する協定を3月14日に締結しました。教育学部会議室で行われた協定締結式では、田代尚弘教育学部長（教育学研究科長）ほか関係教職員が、近代美術館から加藤貞雄近代美術館長ほか関係職員が出席され、協定書にサインを行い双方の発展を祈念して固い握手をかわしました。

協定の内容は、1)美術館で大学のインターンシップ授業を開催、2)大学の授業成果を美術館で公開、3)美術館の普及活動への参加、4)大学、大学院などの授業の一部を美術館で公開、5)研究内容を美術館で公開、の5本柱からなっています。

これまでも連携は、美術教員と美術館の教育普及部門の担当者が現場レベルで進めてきましたが、この締結により、本学では美術館の活動にかかわることで学生の社会体験や実践的な授業が期待でき、一方、教育普及活動を充実させたい美術館側にとっては大学の支援は願うところで、すでに美術館が主催する普及事業に学生がスタッフとしての参加や、美術館で開く映画上映会のポスターデザインを学生が手がけているなどの実績があります。

本学としては、地域との連携を模索するなか、美術館との協定は初のケースであり、今後一層強く連携を図るものと期待が高まっております。



加藤貞雄近代美術館長と田代尚弘教育学部長

## 平成18年度茨城大学卒業式

平成18年度卒業式は、3月22(木)午前10時から茨城県武道館において、学長、役員、名誉教授等の参列のもとに挙行されました。

式は、本学吹奏楽団の前奏に始まり、菊池学長から学部、大学院及び専攻科の卒業生、修了生の学部等の総代に学位記、修了証書が授与され、学長告示、卒業生、修了生の全学総代 佐竹正光(工学部)の答辞と続き、最後に参列者全員で校歌を斉唱して閉会となりました。

なお、今回巣立った卒業生は、2,189名でした。



### ◆平成18年度卒業式告辞

茨城大学長 菊池 龍三郎

馥郁とした早春の香りを漂わせていた梅の季節も終わり、早くも、桜の便りが聞かれる本日、茨城大学を卒業される2,189名のみなさん、卒業本当におめでとう。茨城大学を代表して心からお祝いを申し上げます。またこの日を迎えられるまでに、様々な面で卒業生を支えてこられた保護者やご家族の方々にも、心からお祝いを申し上げます。

みなさんには、ただ今、学士、修士あるいは博士などの学位記や修了証書をお渡ししました。みなさんは、このほかにも教員免許状などの様々な資格も手にされました。さらに今年度は、課外活動をはじめとする様々な分野で優れた成果や成績を収めた方達が大勢いましたし、人命救助やボランティア活動で表彰された方達もおりました。進学や就職などの面でも、頑張ってくれました。特に就職面では、今年は、NHKアナウンサーなどマスコミ界・放送界へも何人も進出を果たし、全体としてみなさんの努力が目立った年でもありました。多方面にわたるみなさんの努力を称え、心から敬意を表します。



みなさんが手にされた学位記や修了証書はたった一枚の紙切れに過ぎません。しかし、そこにはこの数年間のみなさんのかけがえのない青春の努力の跡がぎっしりと詰まっているはずです。それは、これからみなさんが社会に出たり、あるいは進学していくための証明書であるとともに、これからのみなさんを支えてくれる大事な拠りどころともなってくれるものです。

さて、卒業に当たり、私は、ここ数年みなさんに皆さんが持つべき「教養」というものについて話してきたのですが、今年も同じテーマで少し話してみたいと思います。先日、ある集まりで私は、たしかにそうだなと共感する講演を聴く機会がありました。それは、みなさんのような若い人達の「教養」に関する話でした。講演をした関西大学の竹内洋先生の話によりながら、お話ししてみたいと思います。

竹内先生によれば、大学を出た人に求められる教養とは何かということ、第一にある専門の分野については徹底して知っているということ、そして第二にその他のことについても、文系、理系の区別を超えて、なにがしかのことは知っている、かなり知っているということだと言います。つまり、教養があるということは、喩えて言えば、高さと同時に広い裾野を持つ富士山のようなものだと思います。

先生によれば、教養というものには三つのあらわれ方、あるいは働きがある。第一は、喩えて言えば、「得をする教養」「役に立つ教養」です。これは知っていないと社会の中で、あるいは組織の中で生きていけない教養、知っていれば得をするが知らない困るといふものです。簡単に言ってしまうと実用的な教養です。



第二のあらわれ方は、「ひけらかす教養」です。ひけらかすという言葉

の意味は、もっていることが自慢で見せびらかしたくなるという意味です。ある分野のことについて生半可ではなく、それこそ相当に分かっていて、それを通ぶって、自分は他人が知らないことを知っている、誰もが読んでいない本を読んでいる、音楽については、玄人はだしだなどと、教養を持つ人には通ぶったり自慢したりすることがあるのだと思います。しかし、若い人たちにとっては、実はこのような教養のあり方も当然見られるものなのです。

そして第三番目の教養のはたらきとは、「邪魔をする教養」です。昔はよく「教養が邪魔をしてそんなことできない」などと言うことがありました。つまり、邪魔をする教養というのは、私たちが何か後ろめたいことをしようとしても、教養があるために、人間としての道を踏み外せない、そこまではできない、躊躇してしまう、そういうのが「邪魔をする教養」というものだというのです。

先生によれば、大学を出た人間というのは、これら三つの教養のバランスが取れた人間だというのです。つまり、大学を出た人間に求められるのは、仕事や人間関

係で役に立つ色々な知識など「得をする教養」はもっていた方がいい。

また、自分は人よりも沢山本を読んでいる、人が知らないこと、文化的・芸術的なこと、思想や哲学的なことも沢山知っているということを自慢したり、見せひらかしたくなることも若い人には当然ある。

しかし、それだけでは不十分である。竹内先生は、みなさんには、「邪魔をする」教養も必要なのだということです。言い換えれば、教養というものは得をしたり、自慢をしたりするだけでなく、皆さんが何か良くないことをしたりするのを邪魔する教養であって欲しいということです。

特に、情報化、IT化が進み、社会全体が、誰がその行為をしたのかが見えにくくなる匿名性を帯びてくるにつれ、個人の行為が見えにくくなってきています。それとともに、人に知られなければ構わないという無責任な傾向が広がってきています。今や、自分の行為に責任を取らず、社会のせいにする、他人のせいにする傾向が強くなってきている印象を強く持っています。しかし、私たちの社会は、何をやっても許される、結果がすべてだ、自分が得をするためには何をやっても構わないという社会では絶対にありません。

私が言いたいことは、このような時代と社会において、みなさんに求められる教養は、特に、「邪魔をする教養」であるということだということです。

私は、とりわけ今の日本社会を見渡した時、そこに精神の卑しさとか卑怯な振る舞い、あるいは未練がましい言動がはびこっているのを見るにつけ、少なくとも大学において充実した教養教育と専門教育のプログラムのもとで学んだみなさんには、卑怯・未練がましいことをしない人間であることが求められており、そしてそれこそが「教養が邪魔をする」本当の意味での知性や品性をもった人間であると強く思うのです。

私はみなさんに、是非、この先も自己を向上させる努力を続けてほしい、そのためには、たとえば中身のある本を読み続ける努力を自分に課して欲しいと願っています。「役に立つ教養」も「ひとに自慢したくなる、自分を格好良く見せるための教養」も必要です。しかし、それだけでなく、自分の在り方を、自分の行為を時々反省したり、



自分が何か踏み外しそうになったとき、そうした弱い自分に待てと遮り、自分を取り戻してくれる「邪魔してくれる教養」もまた大事であること、そしてこれら三つのはたらきのバランスが取れた教養こそが、これからのみなさんには必要であると訴えたいのです。

今、みなさんは、本学を旅立ち、グローバル化が進み激しく動く時代と社会に船

出します。これからは健康と自己管理に十分に気を付けてください。これから進むそれぞれの進路で、思う存分に頑張ってください。あるいは時として辛い状況に陥り、自信をなくすこともあるかもしれませんが、しかし、そういう時でも、自分を捨てたりしないで、頑張ってみてください。焦らずじっくりと仕事や研究に励んでください。職場では、一日も早く頼りにされる存在になってください。

私達茨城大学の教職員は、みなさんが健康で精一杯活躍してくださることをいつでも祈っています。そして誰よりもみなさんの後輩達はみなさんの頑張りに心からの声援を送っています。是非、茨城大学の多くの後輩達の道しるべになるような活躍をしてくださるよう心から期待してやみません。

最後に、改めて卒業を祝い、これからの皆さんのご活躍とご健康を心から祈ってはなむけの言葉といたします。卒業本当におめでとうございます。

## －「NHK県域デジタルTV放送」

### 茨大タスクフォースだより 2月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成19年2月15日(木)・・・茨城大学自主映画制作の会の活動紹介

(教育学部理科教育2年次 黒須祐基くん)

茨城大学自主映画制作の会(JEK)では、デジタルビデオカメラを使用して、自主映画を制作し、上映を行っています。また、映画やドラマ等にエキストラやボランティアスタッフとして参加したりもしています。(昨年、公開された「ラフ」「夜のピクニック」の撮影にエキストラ・ボランティアスタッフとして参加しました。)

今回は、JEKの活動をより多くの方に紹介したいと考え、昨年の茨苑祭で上映した作品の中から、短い作品を紹介しました。(JEK初の本格的アクション映画の予告編です。多くのアクション映画のパロディを交えながら展開される、迫力のある生身のアクションをお楽しみ下さい。本編のほうは、現在企画を進めている最中です。)



写真は

自主映画制作の会の皆さんと  
大木アナウンサー

・学ランファイター予告編  
(大長さん制作)

を紹介しました。

NHK水戸放送局公開スタジオにて:

左から、大木アナウンサー、大長くん、黒須くん、菅野くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## －「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 3月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成19年3月29日(木)・・・茨城大学アナウンス・ステーションのボランティア活動紹介  
(放送研究会:人文学部社会科学科2年次 久保佳衣子さん)

茨城大学アナウンス・ステーションは、J2水戸ホーリーホックのホーム試合において、ボランティアで場内管理を行っています。

今回は、茨城大学放送研究会のメンバーが、1日をかけて、その活動に取り組む姿を追いました。普通の大学生では体験できない貴重な活動を紹介しました。



写真は  
アナウンス・ステーションの皆さんと  
大木アナウンサー  
放送研究会の皆さん

NHK水戸放送局公開スタジオにて:

左から、アナウンス・ステーションの飯塚くん、田山さん、實川さん、  
大木アナウンサー、久保さん、山田くん、田村さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。